

静岡北中学校 体験授業レポート



「生徒は、昔と今を結びつけて深く考えたり、文化財保存の仕事を知って、保存活動に敬意を感じたり、知識だけでなく生き方まで学ぶことが出来、とても良かったです。」

学校法人静岡理工科大学静岡北中学校の2年生71人が、体験を通して縄文、弥生、古墳時代の学習を深めることを目的に、展示室および整理保存作業の見学と、ミニミニはにわ作り・古代織物・土器の分類・火起こしの4つの体験を行いました。



ミニミニはにわ作り体験



「すぐにヒビが入ってしまったり、きれいな円柱にならなかったりして難しかったので、当時の人々の技術はすごいと思った。」



古代織物体験



「思ったより時間がかかったけど、均等にきれいに出来満足。でも、目が詰まっていなかったから昔の人の服って寒かったんだろうなと思った。」



展示室の見学



「修復の様子を生で見られて、とてもうれしかった。こうやって歴史を伝えていく人はカッコいいと思った。保存の有り難みを感じ、自分も未来に残したいと思った。」



土器の分類体験



「縄文土器が厚いことを実感できた。また、土器によって音が違うことは知らなかったの、試したらおもしろかった。厚みや硬さの違いからかな。」



火起こし体験



「昔の火起こしの大変さを学んだ。昔は夜を照らす明かりは火だけだったため、人々の心の唯一のよりどころだったのだらうと考え、感慨深く思った。」

先生方の感想

「中学1年時に机上学習のため、実感を伴って理解することが出来ませんでした。今回体験や見学を通して興味関心を高めることが出来、生徒が楽しみながら古代の学習をし実感することが出来ました。また、創造性を発揮して作業することが出来たので大変良かったです。生徒は、昔と今を結びつけて深く考えたり、文化財保存の仕事を知って、保存活動に敬意を感じたり、知識だけでなく生き方まで学ぶことが出来、とても良かったです。ありがとうございました。」

